論点

論理付け（warrant）の信頼性を高めるために、論理づけにおける理由・エビデンスを求め続けることで、議論の収拾がつかなくなってしまうのではないだろうか。

**⇒そうならないためには、どのように、どのような論理づけを用いるべきであろうか。**

論点までの流れ

1. If someone objected that he did not see the relevance of the reason to the claim, the person making the argument would have to justify it with a warrant. (p.155/11.3のl.4)

もし主張と理由の関連性が理解できない人がいるならば、論をつくる人は論理付けによってそれを正当化しなければならないだろう。

1. When you think readers might question the truth your warrant, you must treat it as a claim in its own argument, supported by its own reasons and evidence.（p.158/l.1）

　　**読者があなたの論理付けの真偽を疑うだろうと考えられる場合、論理付けを、理由やエビデンスによって支えられる主張として取り扱わなければならない。**

1. Lacking massive evidence to back up the unlimited certainty of that warrant, that argument is shaky.（pp.169~170）

 論理付けの無条件な確実性を裏付ける大きなエビデンスかけていれば、その論は危険なものである。

つまり…

懐疑的な読者を想定して、論理付け（warrant）を書くことによって、論理付けのための論理付けが必要になってきてしまうのではないかと班は考えた。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 主張 | ⇔　なぜなら　⇔ | 理由 | ⇔　基づく　⇔ | エビデンス |

論理付け（warrant）

（＝主張）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ⇔　なぜなら　⇔ | 理由 | ⇔　基づく　⇔ | エビデンス |

論理づけ(warrant)

（＝主張）

 ・・・・・・

**⇒このように議論に収拾がつかなくなってしまうことを避ける為に、どのように、どのような論理づけを用いるべきか？**